

予 算 要 求 資 料

令和7年度3月補正予算

支出科目 款：商工費 項：観光費 目：観光開発費

事業名 戦国岐阜のストーリーに親しむ記念館展示費 (R8分)

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

観光文化スポーツ部 岐阜関ヶ原古戦場記念館 学芸係 電話番号：0584-47-6070

E-mail : c23116@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 補正要求額

79,821 千円

(現計予算額 :

0 千円)

<財源内訳>

区分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使 用 料 手数料	財 産 入	寄 附 金	そ の 他	県 債	一 般 財 源
現 計 予算額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
補 正 要求額	79,821	18,500	0	0	0	0	0	0	61,321
決定額	79,821	18,500	0	0	0	0	0	0	61,321

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

2020年10月に関ヶ原町に岐阜関ヶ原古戦場記念館を開館した。

記念館では、関ヶ原の戦いに関する理解の増進を目的に関ヶ原の戦いに関する資料の収集や保管、展示及び調査研究を行うため、資料の燻蒸や研磨や展示関連機器のメンテナンスにより常時資料と展示環境を最適な状態に維持する必要がある。また、2026年は戦国時代を対象とした大河ドラマ「豊臣兄弟！」が放映されるため、関連するテーマを設定した「企画展」を開催し、話題性を高めさらなる集客を図る必要がある。

(2) 事業内容

①展示資料および展示機器の維持管理・保守

- ・ I P Mに基づく文化財の清掃 (業務委託)
- ・ 新規収集資料の燻蒸 (業務委託)
- ・ 各種展示機器の保守管理 (業務委託)

②企画展開催

- ・ 他館との連絡調整経費
- ・ 他館からの収蔵品借上料、資料の運搬、美術保険料
- ・ 企画展広報

(3) 県負担・補助率の考え方

2015年3月に策定した「関ヶ原古戦場グランドデザイン」に基づき、県が実施する事業であるため、県負担が妥当。

(4) 類似事業の有無

岐阜県美術館、岐阜県博物館及び岐阜県現代陶芸美術館における企画展

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
人件費	168	資料収集委員謝礼
旅費	1,007	資料借用打ち合わせ、資料運搬同行
需用費	10,200	展示用消耗品、企画展ポスター等印刷、資料破損修繕
役務費	500	美術品保険料（企画展借用資料）
委託料	47,946	資料燻蒸、資料運搬、映像等設備保守
使用料	1,500	資料賃借料
備品購入費	18,500	展示用備品
合計	79,821	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

「清流の国ぎふ」創生総合戦略
IIの3 地域にあふれる魅力と活力づくり
(2)次世代を見据えた産業の振興
④観光産業の基幹産業化
岐阜県成長・雇用戦略

(2) 事業主体及びその妥当性

県が管理運営する施設での事業であるため県執行が妥当

事 業 評 価 調 書 (県単独補助金除く)

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 繼続要求事業

1 事業の目標と成果

(事業目標)

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
- ・関ヶ原古戦場の更なる魅力を創出し、観光客数の増加を図るとともに、関ヶ原古戦場を核とした周辺地域の周遊観光を推進する。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R)	R5年度 実績	R6年度 目標	R7年度 目標	終期目標 (R10)	達成率
①入館者数		198,668	199,000	190,000	200,000	99.3%

○指標を設定することができない場合の理由

(これまでの取組内容と成果)

令和3年度	<ul style="list-style-type: none"> ・春季企画展「物語る戦国合戦」、夏季特集展示「石田三成」、秋季企画展「竹中半兵衛と重門」、冬季特集展示「新収蔵品展」 ・市町村連携事業、夏休み企画「M E E T 三成 in 関ヶ原」、大河ドラマ連携、スタンプラリー、教育普及（講演会、上映会、ワークショップ） ・年間入館者数：91,212人（有料エリア入館者のみ）
	指標① 目標：200,000人 実績：91,212人 達成率：45.6%
令和4年度	<ul style="list-style-type: none"> ・春季企画展「錦絵に見る関ヶ原合戦の武将たち」、夏季特集展示「ねこねこ日本史@関ヶ原2020」、秋季特集展示「南宮山のその時その後そして今」秋季企画展「島津家の関ヶ原」、冬季特集展示「関ヶ原の陣跡は、どのように比定されたのか」 ・年間入館者数：139,917人（有料エリア入館者のみ）
	指標① 目標：200,000人 実績：139,917人 達成率：70%
令和5年度	<ul style="list-style-type: none"> ・春季特集展示「徳川家康書状～会津征伐から関ヶ原の戦い～」、夏季企画展「忍者一嘘か真かー」、秋季企画展「家康一関ヶ原がつくった”英傑”ー」、冬季特集展示「関ヶ原の陣跡は、どのように比定されたのか～現代につながる神谷道一の志～」 ・年間入館者数：198,668人（有料エリア入館者のみ）
	指標① 目標：200,000人 実績：198,668人 達成率：99.3%

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)

3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない

(評価) 2	幅広い層に受け入れられるとともに、地元の歴史を学ぶ教育旅行先としても評価され、周遊観光の核のひとつとなっている。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)	
3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	目標達成に迫る約16万人の来館があった。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)	
2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 2	他館との連携及び関ヶ原ならではの資料購入を進めることで、魅力的な展示を行い、来館者数のさらなる増加を目指す。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項

実物、複製を問わず常に資料と展示環境を最適な状態に維持する必要がある。企画展は、話題性の高い資料ほど借り上げ料や保険料等の経費を要し、また受け入れ側の展示環境の高度な展示環境、管理体制が求められる。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

魅力的な展示を継続するために、資料と展示環境を最適な状態に維持することが重要であり、継続的に取り組む必要がある。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【○○課】
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	